ファインスチール　第61巻　3号　通巻584号　1、4、7、10月25日発行　平成29年7月25日発行　ISSN1348−494X

Fine Steel

ファインスチール

Summer 2017

夏

CONTENTS

01 特集1
第15回 金属サイディング
施工例写真コンテスト

05 特集2
第69回
全国建築板金業者 茨城大会

07 ファインスチールを使った 建築設計例　322
擁壁と屋根/対行政住宅
「対行政」が生み出した住宅のカタチ ――
設計：齋藤 隆太郎／DOG

11 建築めぐり
ウォートルス伝 9　丸山雅子

13 街でみかけるファインスチールの施工例　その31

一般社団法人 日本鉄鋼連盟

特集 1

第15回　金属サイディング

施工例写真コンテスト

（主催：日本金属サイディング工業会　後援：一般社団法人 日本鉄鋼連盟）

日本金属サイディング工業会が一般社団法人 日本鉄鋼連盟の後援により、平成28年7月1日～10月31日を応募期間として実施した「第15回金属サイディング施工例写真コンテスト」について、受賞された施工例の写真を中心にご紹介します。

下山 英之さん（統括本部長）

- 当物件の建設場所は田園地帯であり、周囲の環境になじむ色・デザインを設計事務所様が選択された。
- 設計上、屋根の形状が特徴的でデザインのポイントになっているので、中庭の排水には工夫をした。
- 当物件の入居者様が、毎日の暮らしを、和んだ楽しい雰囲気で過ごしていただけるように、心をこめて建設した物件。評価されて、とても誇らしい。

新築部門 最優秀賞

株式会社中本屋工務店（岡山県）

●江口特別審査委員のコメント

今回初めて「グループホーム」の受賞です。機能性の面からは耐久性、断熱性などで選ばれることはあったかと思いますが、これだけ意匠性にも秀でた作品は今までにはありませんでした。目につくことは屋根の形状です。そこに太陽光を設置して色を溶け込ませています。鳥の羽ばたきのようです。中央の入り口は、サイディングの横柄でスタイリッシュにデザインされており、奥にある引き戸がナチュラルなのが暖かい。その奥には中庭か陽だまりの場所がありそうですね。地球環境にやさしく、居住者にも介護者にも配慮したうまいつくりであると感心します。時がたって、植栽が建物に溶け込んできたらますます素晴らしいグループホームになると思います。受賞おめでとうございます。

●杉田特別審査委員のコメント

グループホームということで、各住戸へのアプローチ部分を半外部空間として中心に設けて、各住戸を配置させているようです。このアプローチ部分が居住者の毎日の挨拶やおしゃべりの場になるのでしょうね。建物としては片流れの二つの建物を合わせたという印象ですが、バタフライ形状の屋根が印象的なシンプルな形状の建物です。外壁や開口部の細かな配置やディテールは写真では分かりませんが、きっと室内もシンプルな住居なのでしょう。今回の施工例コンテストは、住宅以外の建物の応募が目立ったように思います。この作品も一般の住宅ではなくグループホームですが、金属系サイディングが広く、様々な建築物に使われていることを、また、きっとこれからもさらにその可能性を広げていくことを思って最優秀とさせていただきました。

金属サイディング施工例写真コンテストは、日本金属サイディング工業会加盟8社が、全国の設計事務所・工務店・金物店・板金店の協力を得て、金属サイディング普及活動の事業として実施しているもので、第 15 回は全国から 2,090 作品の応募がありました。新築及びリフォームで建物の外装に金属サイディングを使用したものを対象とし、新築では建物の意匠性・高級感・コーディネート感覚など、トータルでバランスのとれた作品、リフォームでは『施工前⇒施工後』で優れたイメージアップの見られる作品を審査委員会で選考しました。その結果、最優秀賞 2 作品（新築・リフォーム各 1 作品）、優秀賞 8 作品（新築 4 作品・リフォーム 4 作品）、入選賞 40 作品（新築 25 作品・リフォーム 15 作品）が選ばれました。
また、東日本大震災発生以来実施している被災地の義援金寄付は今回より熊本地震被災地を加えた2被災地に対し総額209,000円（応募作品件数に応じた額）を日本赤十字社を通じ寄付いたしました。

［審査委員会］
・特別審査委員　江口恵津子（株式会社ヴェルディシモ代表取締役、日本フリーランスインテリアコーディネーター協会会長）
・特別審査委員　杉田宣生（一級建築事務所 HARUハル建築研究所）
・当会審査委員（理事・幹事・技術委員・事務局）

リフォーム部門 **最優秀賞**

株式会社オリバー ガイソー（富山県）

1年以上前から外壁のリフォームを検討されていたが、まとまった時間も取れず、また、いろいろな会社にアドバイスをもらっていたが、満足できる内容ではなく、先延ばしの状態であった。
そんな中で、お声を掛けていただき、様々なメーカーさんの商品や貼り方を提案させていただいた。
店舗兼住宅であったことと、和の風合いもあり店舗側は洋風の趣もあることから、木目柄と細かい石目の柄、
そして正面の部分では玄関ドアを入れ替え、アクセントとなる大きな石目柄を持ってきた。
色は、白・茶・ベージュ系の3色でまとめ、飽きのこない仕上がりにした。

山村 亨さん

●江口特別審査委員のコメント

劇的に変わりました。1階を薄め、上階を濃い目のブラウンとして品の良さが出ています。商店街の中心の建物でしょうか?コーナーを切った重厚感のある建物だったので、サイディングすることによって町の顔となり、町を活性化するに相応しいランドマークになったと思います。周りの建物にも普及して街並みが再び豊かになることを祈ります。受賞おめでとうございます。

●杉田特別審査委員のコメント

商店街の外れ(?)にある店舗併用住宅のリフォームのようです。たぶん今回のリフォームが初めてではないのではと思われます。建物は、かなり古く、ファサード側の外壁は過去にリフォームされているような印象を受けます。今回のリフォームでは、屋根や後ろ側の外壁も含めて、かなり大がかりなリフォームをされましたね。シンプルで落ち着いた印象に仕上げられたと思います。現在、各地の商店街において、立ちゆかずに店舗を閉めて「シャッター通り」となるなどの問題を抱えています。審査の際にも、審査員から、「こういったリフォームをしていただくことで商店街を活性化させていって欲しい」といった意見がありましたが、私も同感です。暗い商店街には人は寄りつきません。明るく魅力ある商店街づくりにも、ぜひ、リフォームを役立たせていっていただければと思います。

新築部門 優秀賞

㈱協和 横手営業所
（秋田県）

新築部門 優秀賞

Koizumi Studio
（東京都）

新築部門 優秀賞

ing環境設計室
（宮崎県）

新築部門 優秀賞

㈱翼創建
（群馬県）

リフォーム部門 **優秀賞**

㈱美装good八戸（青森県）

施工前

施工後

リフォーム部門 **優秀賞**

ALC販売㈱四国中央本部店（徳島県）

施工前

施工後

リフォーム部門 **優秀賞**

コーケン㈱（石川県）

施工前

施工後

リフォーム部門 **優秀賞**

㈱住居時間（愛知県）

施工前

施工後

第69回
全国建築板金業者茨城大会

〈主催〉
全日本板金工業組合連合会
一般社団法人 日本建築板金協会

〈開催日〉
平成29年5月17日（水）前夜祭
平成29年5月18日（木）本大会
於：ひたちなか市総合運動公園内 総合体育館

万歳三唱

テープカット

第69回全国建築板金業者茨城大会が、平成29年5月18日に茨城県ひたちなか市総合運動公園内の総合体育館で開催され、全国の建築板金業者約3,500名が茨城県に集結。

流通協展示ブース風景

第69回の総合テーマは

「 建築板金の誇りを胸に、希望の未来へ躍進する! 」

建築板金業界では登録基幹技能者や責任施工保証の諸制度、事業経営の未来を探る次世代研究会や匠の技を継承する競技大会などの主要事業を継続して推進し、優れた技能･技術を伴う経営力の強化と向上を図ってきた。

昨年は全板連が設立50周年の大きな節目を迎え、当業界がかねてから高い評価を得ている組織力をさらに向上させる機会と捉え、緩急剛柔を適切に使い分けながら建築板金業の誇りを胸に、まい進していきたいとの会長のお言葉があった。

各展示ブース風景

展示ブースで説明を受ける石破議連会長

石本惣治 大会会長

橋本昌 茨城県知事

第70回節目の開催は震災復興の地、宮城県に決定

森谷英之 日本鐵板社長

芝間氏による津軽三味線の演奏

ホテルクリスタルパレスで行われた前夜祭は、挨拶に先立ち、芝間氏による津軽三味線の演奏が披露され、石本惣治大会会長（全日本板金工業組合連合会理事長）の挨拶、石破茂衆議院議員（建築板金業振興議員連盟会長）、橋本昌茨城県知事、本間源基ひたちなか市長、中尾卓日新製鋼建材社長の来賓祝辞、森谷英之日本鐵板社長の乾杯にて開催された。

石破茂 議連会長

中尾卓 日新製鋼建材社長

ファインスチールを使った
建築設計例 322

擁壁と屋根/対行政住宅

「対行政」が生み出した住宅のカタチ

設計：齋藤 隆太郎／DOG

（撮影：写真はすべて、新澤一平氏撮影©）

広いリビングとバイクガレージのある暮らし

「擁壁と屋根／対行政住宅」は神奈川県横浜市に立地する若い夫婦のための住宅である。施主は夫婦でバイクに乗ることを共通の趣味としており、賃貸住宅で暮らしていた頃はバイクの駐輪場使用料を毎月支払っていた。これから生まれてくる子供や月々の家賃についても考慮した結果、土地を購入し家を建てることを決意した。友人からの紹介で設計を依頼された齋藤氏は、土地選定の段階から施主をサポートしたという。「広いリビングからバイクガレージが見え、気軽に行き来できるようなライフスタイルを送りたい」という施主の要望に沿ってプランを検討する中で、特に低価格であったこの土地が敷地に選ばれた。

難しい敷地に対するアプローチ

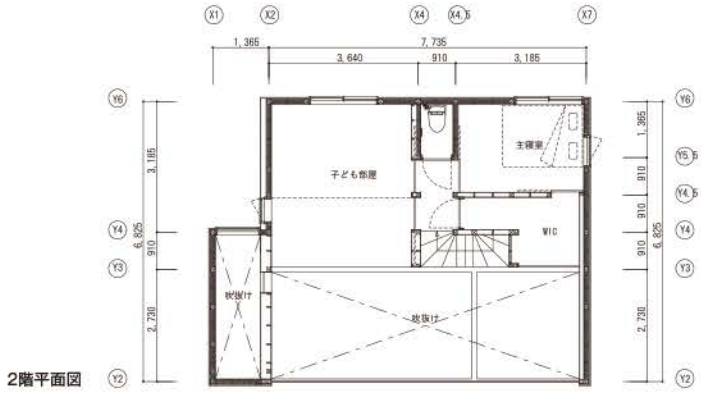
敷地は横浜らしい斜面地に位置し、昭和30年代頃にひな壇造成された団地地区にあたる。手前と奥に擁壁が切り立ち、既存車庫を抱えたこの敷地は、ハウスメーカーでも処理が難しく4年間にわたって買い手が存在しなかった背景をもつ。敷地は市街化調整区域に含まれるためそのままでは建物を建てられない上、擁壁や既存車庫については申請書が存在しないため構造が把握できず、手を加えることが許されない。その上、前面の土地は道路ではなく43条ただし書き空地のため、敷地への建設には少なくとも数ヶ月間の手続きを要する。多方面から法規上の制約がかかる中、敷地をいかに肯定的に評価するかが困難であったと齋藤氏は話す。

齋藤氏は確かな手応えを感じたと言う。

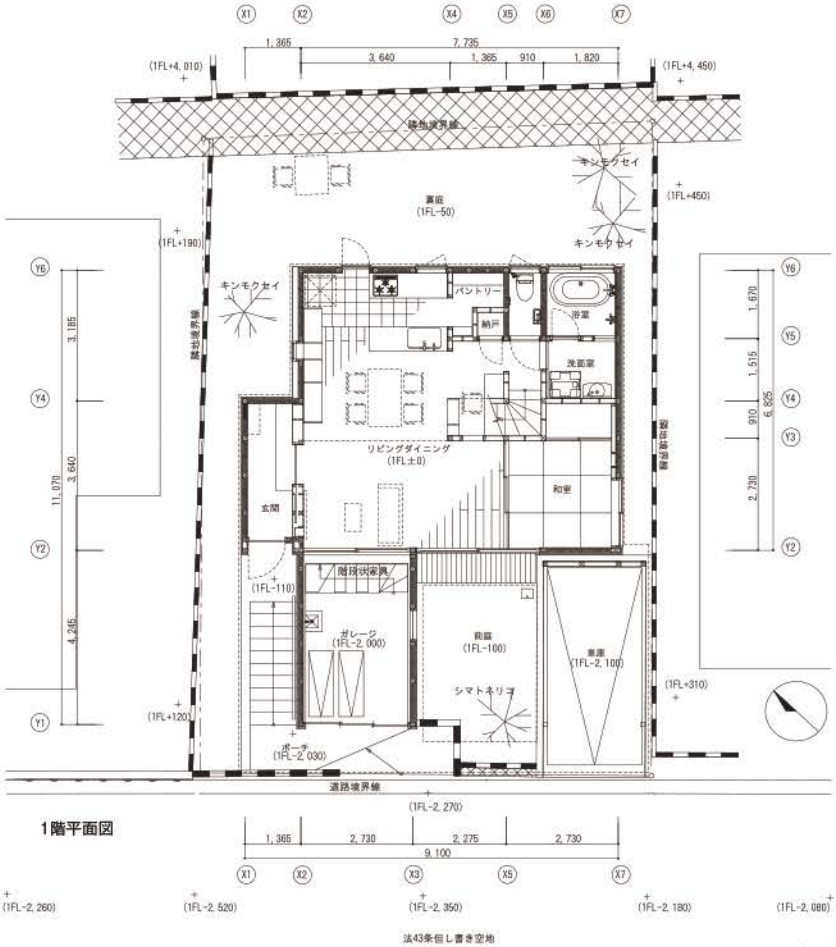
「用途上不可分」がもたらしたメリット

「擁壁と屋根／対行政住宅」の平面プランは住宅としては比較的単純なものである。むしろその設計の妙は、車庫棟と住宅棟を用途上不可分の二棟として同一敷地内に計画した点にあるといえよう。これらを一棟として建てると、住宅部分は地上一階、車庫は地下一階扱いとなる。敷地は第一種高度地区の絶対高さ制限を受けており、一棟としての

リビングにはハイサイドからの柔らかい光が差し込む。



2階平面図



1階平面図

法43条但し書き空地

既存車庫に触れずにバイクガレージを設ける。そのために設計上最優先となったのは、造成費用を最低限に抑えるバイクガレージの掘り方であった。既存車庫と隔離したバイクガレージを掘りコンクリートを打つことで、ガレージの腰壁がそのまま土留めになり住宅機能を支えるよう工夫された。手前の既存車庫とバイクガレージに屋根をかけ、その勾配を延長していけば奥の地盤面に住宅ができる。さらにそれによって、二つのガレージの間には屋根に囲まれた前庭が生じる。この案に到達したことで、

ダイニング・キッチン越しに裏庭まで見通す。

計画では平均地盤面が地下一階・地上一階の中間で取られることになり、住宅部分の高さが大きく制限されてしまう。そこで齋藤氏は車庫棟と住宅棟を二棟に分離し、平均地盤面を別々に設定した。すると住宅棟を最大限高く設計することが可能となり、ロフトが実現されただけでなく、屋根面が断層のようにずれることでハイサイドライトが生じたのである。

用途上不可分の二棟は構造と機能の両面で分離されていなければならない。そのため住宅棟のリビングとバイクガレージの間には50ミリの隙間が設けられ、二棟を結ぶ動線は階段ではなく「階段状家具」によって処理された。玄関部アプローチは一見、車庫棟と連続しているように見えるが、注意深く目を凝らすと屋根目地に隙間が空いており、住宅棟玄関部と車庫棟は縁が切られている。あたかも単純な二枚屋根として見えるよう設計している点にも齋藤氏のこだわりが現れているといえよう。

大きな屋根のファサードに貢献したガルバリウム鋼板

作品名が象徴するように、大きな屋根はこの住宅の中心的な存在である。既存擁壁が壊せないことと共存したデザインとして、擁壁と屋根のみが見えるようなファサードが意識された。また、南側の前庭およびリビングは、前面を覆う屋根によって向かいの住民に対する開口面積を絞っており、適度なプライバシーが確保されている。一方で前庭は洗濯物干しやバーベキューなどプライベートな活動にも使用され、前庭を介した近隣住民とのコミュニケーションも生まれているという。

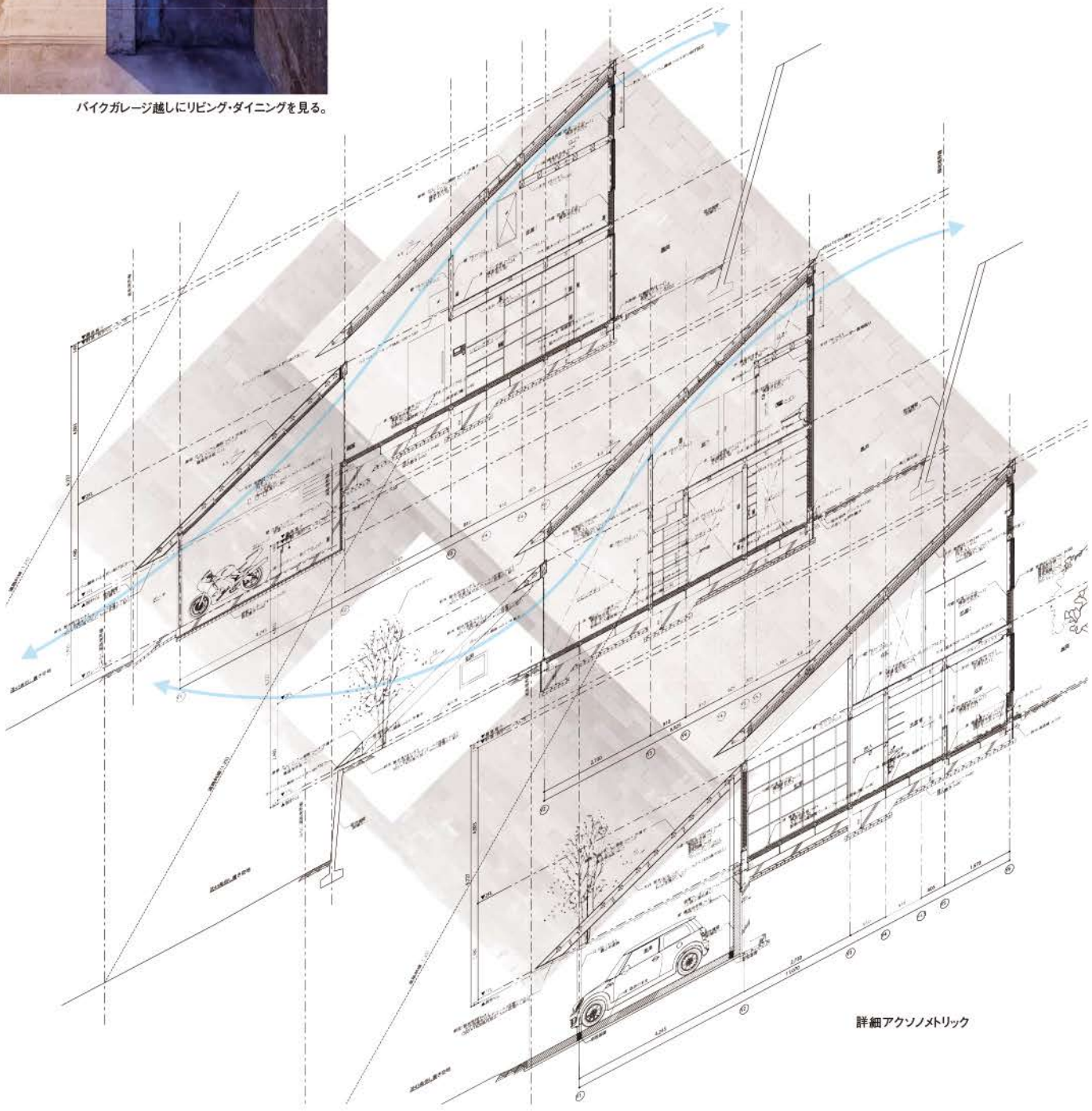
この屋根の葺き材として活躍したのが塗装ガルバリウム鋼板である。何しろ低価格かつ高性能であり、加工性が良く細部にもこだわった加工がしやすいのが利点だという。また、葺き材を現場にロールで運び込むことで今回のような長尺の平葺きが実現しており、大胆な利用にも適しているといえよう。塗装ガルバリウム鋼板は瓦や銅板のように、経年変化による味わいが出ないという意見もあるが、むしろ建築がいつまでも変わらずに佇む姿を支えていると齋藤氏は肯定的に評価する。その姿勢は、齋藤氏が前職のゼネコン設計部務め時代に携わった福島県耶麻郡の野口英世記念館の外壁仕上げにも現れている。

屋根葺き材以外にも齋藤氏の工夫は随所にみられる。床には幅広のオークを長尺で用いることで格式高い仕上げとした。天井や家具、造作はすべてシナ合板を使用しているが、全体の色合いがぼやけぬよう家具には黒みがかった塗装を施し異なる意味合いを持たせている。潤沢に予算がとれなくとも、全てを貧相に仕上げるのではなく、適材適所で良い材料を使うメリハリが重要だという。

バイクガレージ越しにリビング・ダイニングを見る。

擁壁と屋根に守られる暮らし

施主には先日子供が生まれ、現在は3人で暮らしている。これからの子供の成長に合わせて、2階ロフトの子供部屋は将来的に仕切れるように設計されている。屋根を一続きに見せたいという意図で壁はほとんど設けられていない。そのため重力換気によって家の中を自然と風が通り抜け、エアコンはほとんど使用されていないという。北側の擁壁と住宅の間に法規上必然的に生じた裏庭も、施主の妻がガーデニングを楽しむ趣味の場として利用されつつある。擁壁と屋根に守られた家族の生活は、これからもゆっくりと時間をかけながらこの土地に馴染んでいくであろう。



詳細アクソノメトリック

設計：DOG／齋藤 隆太郎
株式会社DOG一級建築士事務所／〒130-0025 東京都墨田区千歳3-18-3 三橋ビル201
[tel/fax]03-6885-7530　[e-mail]info@dog-archi.com　[URL]https://dog-archi.com/
レポーター：東京大学 大月研究室　武田 秀星（M2）　松田 涼（M1）

建築めぐり

ウォートルス伝 9

日本陸軍最初期の兵営：竹橋陣営

藤森研究室

担当 丸山 雅子（もとこ）

竹橋陣営は、皇居北の丸にかつて存在した日本陸軍の施設である。本連載の主人公トーマス・J・ウォートルス（1842-1898）の代表作として、日本近代建築史ではよく知られた作品である。

中心となる建物は1871年の竣工で、東京で二番目に古い煉瓦造建築とされる。ちなみに一番目は、春号で取り上げた「分析所」である（詳しくは春号参照のこと）。長らく東京名所の一つに数えられ（図3）、戦後しばらくは学生寮などに有効利用されていたが、旧近衛師団司令部（現東京国立近代美術館工芸館、1910年）を残して、1960年代半ばに建物は全て撤去された。現在は北の丸公園（1969年開園）の緑が広がっている。

「陣営」とは、兵士が訓練・教育を受けながら集団生活をおくる施設を指す古い表現で、同じ意味を持つ言葉としては「兵営」の方が一般的である。本稿では、「竹橋陣営」は固有名詞としてそのまま使い、一般名詞としては「兵営」を用いる。

図1 地図に描かれた竹橋陣営（1883年2月測量）
中央左よりに近衛歩兵営、右よりに近衛砲兵営、右下に竹橋門が見える。近衛歩兵営では、口の字形に配置された兵舎群の東西に炊事場、南側に体操場、練兵場、火薬庫、北側に病室、営倉が、近衛砲兵営には厩と弾薬庫が描かれている。出典：参謀本部陸軍部測量局『五千分一東京図測量原図』日本地図センター複製発行、1983年

「竹橋」を冠しているのは、竹橋には竹橋門という江戸時代からの城門が、1909年に撤去されるまで使われており、兵営は竹橋門の内側に設けられたことによる（図1）。そのため、現代の私たちの目には皇居北の丸としか映らない場所は、当時「竹橋内」と呼ばれていた。

竹橋内には、ウォートルスによって近衛兵（注1）の歩兵営と砲兵営の二つの兵営が造られたが（文献1）（図1）、建築的に注目されるのはもっぱら歩兵営の方で、資料も豊富である。その中心となる建物は、上述したように、1871年の竣工と伝えられるが、兵営全体の完成は遅れる。それまで皇居周辺に配置されていた近衛歩兵四大隊が、近衛歩兵第一聯隊（第一大隊・第二大隊）、第二聯隊（第三大隊・第四大隊）に編制され、新築の竹橋陣営に転居したのは1874年2月のことである（文献2）。それから終戦までの71年間あまり、同じ場所で、日本陸軍最初の聯隊として、最も長い歴史を刻んだことから、この場所は「近衛歩兵第一、第二聯隊」と呼ばれていた（図3）。1885年に旅団が編成されてからは、「近衛歩兵第一旅団」とも呼ばれていた（図2）。

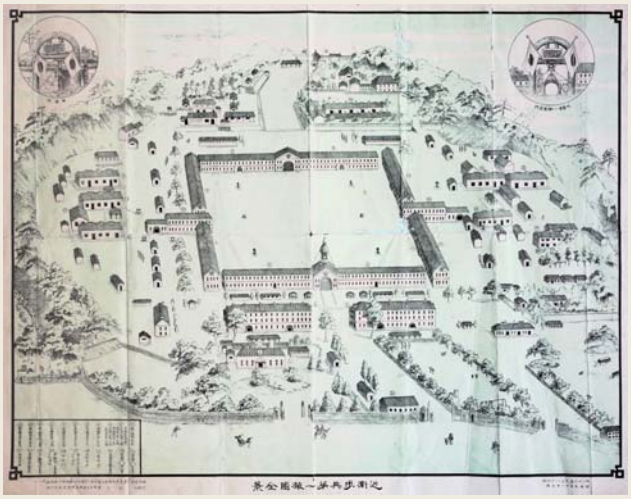


図2 鳥瞰図に描かれた竹橋陣営（1893年）
柵・塀と門の位置が南に移動し、図1で体操場と記された場所に、三階建ての兵舎が二棟新築されている。その手前に第一旅団司令部が新築されている。北側には、将校集会所と下士集会所が新築されている。出典：神戸國太郎作画「近衛歩兵第一旅団全景」1893年

では建物を詳しく見てみよう。兵舎は敷地の中央にロの字形に配置され、周辺に炊事場、医務室、営倉などが設けられた（図1、2）。ロの字の一辺は約200メートルという長大なもので、東京ではまだ珍しかった赤煉瓦の二階建ての建物が八棟組み合わさって、広い営庭（えいてい）（兵営の庭）を取り囲んでいた。建設に必要となった大量の煉瓦は、ウォートルスの指導の下、東京の小菅で焼かれた（文献3）。建物は純洋式で、外壁には縦長の上げ下げ窓が均等に並べられ、軒の出のほとんどない、緩やかな傾斜の屋根に瓦が葺かれた。ロの字の南側・北側は、一続きの長い建物で、その中央部は外壁を張り出し、正面にペディメント（三角破風）を見せ、その下に二層分の高さのアーチ形の開口を設け、営庭に至る通路とした。南側の中央部の上には、小さなドーム屋根を載せた時計塔がすっくと立ち上がり、竹橋陣営のシンボルとなった。時計は1871年のフランス製で、東京で最初の時計塔と伝えられる（文献4）。「その建築宏壮輪奐（りんかん）人目（じんもく）を驚かすばかりなり。練兵場あり、体操場あり、また兵営の外に火薬庫、炊事場、病室等あり。建築の結構各兵営中の第一等とす」（注2）と明治中期に評された（文献5）。

最近オーストラリアで刊行されたウォートルスの伝記によると、英国の建築史家のニール・ジャクソン氏は、ロの字形配置の竹橋陣営の参照例として、アイルランドの兵営を二件挙げたという（文献6）。アスローンのカス

テューム兵営（Custume Barracks, Atholone）と、ウォートルスの生まれ故郷のバーの兵営（Crinkill Barracks, Birr）である。そこで筆者がそれぞれの配置図を確認したところ、両者ともロの字形ではなかった（文献7）。ただ配置は異なっていたが、バーの兵営と竹橋陣営とでは明らかに通じるものがあった（図4）。

バーの兵営は、ナポレオン一世率いるフランスの脅威に備えて、19世紀初期にアイルランドで次々と建設された兵営の一つで（文献8）、同時期に建てられたアイルランドの兵営のいくつかには、外観に共通点が認められる。それは、二階建てまたは三階建ての長い兵舎の、中央部だけを少し張り出し、正面にペディメントを見せ、その下に二層分の高さのアーチ形の開口を設け通路とし、上には、小さなドーム屋根を載せた塔を立ち上げるという姿である（注3）。つまり、竹橋陣営は、19世紀初期のアイルランドの兵営の外観を踏襲しているのである。

では、ロの字形はどこから来たのか、当時のウォートルスの周辺を探ると、恰好なモデルが一棟思い当たる。それは、ウォートルスが大阪で造幣寮の工事に従事していたとき、大阪城京橋口門内に新築された陸軍の兵学寮（1870年）である。間口・奥行きが約80メートル（文献9）のロの字形平面の木造二階建てで、「完全に西洋式の生活や軍隊の訓練が行える施設」になっていたという（文献10）。ウォートルスは本来建築家ではなく、兵舎の設計は未経験だったので、竹橋陣営の設計に際し、近所に新築された洋式兵舎を参考にした可能性は十分ある。また、竹橋陣営のロの字の東側・西側に並ぶ細長い兵舎の間口が兵学寮と同じ約80メートルであること、二つの兵舎を中央部で連結した構成の北側・南側の建物が、兵学寮の二倍強の長さであることは、ウォートルスが兵学寮の平面を参考にした可能性を示している。

図3 絵葉書になった竹橋陣営（戦前）
竹橋陣営は東京名所として何度も絵葉書になった。正面に見える時計塔は1871年に完成したもので、1945年の空襲で被災するまで、竹橋陣営のシンボルだった。門に掲げられた表札が示すとおり、西側に第一聯隊の兵営が、東側に第二聯隊の兵営が置かれた。

明治初期の日本陸軍における外国人の影響については、これまでに詳細な研究がなされている。それによると、日本陸軍は設立当初からフランス陸軍を模範としており、フランス軍人を雇って兵士を教育し、フランス軍人によって兵舎が設計・建設されていた。大阪の兵学寮も、現存最古の兵舎である明治村の歩兵第六聯隊兵舎（1873年）、仙台の歩兵第四聯隊兵舎（現仙台市民俗歴史資料館、1874年）、新発田の通称“白壁兵舎“（現白壁兵舎広報史料館、1874年）も、フランス人の指導による日仏折衷の木造兵舎であるという（以上文献11）。

そうであるなら、竹橋陣営でのウォートルスの起用は原則に反している。完成した兵営は、フランス式の配置・平面に、アイルランド式の外観を掛け合わせたものである可能性があり、明治初期の陸軍建築の鬼子ともいうべきものであった。それでも、東京名所となり、「各兵営中の第一等」（文献5）、「当時の兵舎建築としては代表的なもの」（文献4）と目されていたのである。

竹橋陣営は現存する上述の兵舎より古く、タイプの異なる唯一無二の存在であり、しかも東京では貴重な明治建築であった。にもかかわらず、保存運動が実って難を逃れた旧近衛師団司令部を除いて、他の建物は全て国によって取り壊されてしまった。新しい平和な時代に、過去の軍事施設をなくして、国民の公園に造り替えることは、前向きな発想だったのかもしれない。しかしその文化的価値を考えると、返す返すも残念である。

図4 ウォートルスの生まれ故郷にある兵営
ウォートルスの生まれ故郷のバーの郊外クリンキルに、1813年に建設された兵営。間口約250メートルの長い兵舎の両サイドに、細長い営庭が配され、その周囲に建物が置かれた。写真の中央に写っているのが営庭、左側と奥に見えるのは兵舎、右側は教会である。出典：Offaly History Centre所蔵

[注]
1 建物の着工時には「近衛兵」ではなく、「御親兵」と呼ばれていたが、1872年に改称された。
2 引用は、旧漢字・旧かなを現代表記に改め、一部の漢字は開いてかな表記とし、読みやすいよう句読点を追加した。
3 例えば、キルケニーのステフェン兵営（Stephens Barracks, Kilkenny）、テンプルモアのリッチモンド兵営（Richmond Barracks, Templemore）、ケアの兵営（Cahir Barracks, Cahir）、トラリーのバリムレン兵営（Ballymullen Barracks, Tralee）、ネースのデヴォイ兵営（Devoy Barracks, Naas）、ニューブリッジのカヴァルリー兵営（Cavalry Barracks, Newbridge）に外観の類似が認められる。

[参考文献]

1 『The Japan Weekly Mail』1872年6月8日、『The Far East』1875年7月31日
2 『近衛歩兵第一聯隊歴史』下巻、全国近歩一会、1986年
3 『明治工業史 建築篇』工学会、1927年
4 平野光雄『明治・東京時計塔記』青蛙房、1958年
5 中野了随『東京名所図絵』小川尚栄堂、1890年
6 メグ・ヴィーヴァーズ『An Irish Engineer』2013年
7 Military Archives <http://www.militaryarchives.ie/home>
8 A brief history of barracks in Ireland <http://www.militaryarchives.ie/en/collections/online-collections/maps-plans-drawings-collection/history>
9 内務省地理局「大阪実測図」1886年
10 橋寺知子・川島麟太郎「明治初年に大阪城址に設置された近代的諸施設について」『日本建築学会計画系論文集』第568号（2003年6月）
11 中村赳「明治の軍制におよぼしたお雇い外国人の寄与」『軍事史学』6巻2号（1970年8月）、中森勉「明治初期における陸軍兵舎建築について」『日本建築学会大会梗概集』1993年、前島美知子「旧陸軍遺産の成立に関する研究―旧陸軍黎明期の建築計画とフランス陸軍の影響―」『日本建築学会大会学術講演梗概集』2010年ほか。

街でみかける ファインスチールの施工例 その31

1 裏磐梯 グランデコ 東急ホテル

磐梯山、安達太良山、吾妻山に囲まれた標高約800メートルにある山と湖の国・福島県裏磐梯。素晴らしい自然に恵まれたこの地に「裏磐梯 グランデコ 東急ホテル」はある。屋根材に採用された塗装ガルバリウム鋼板は、雪深い当地で積雪から建物を守っている。

ホテルはグランデコスノーリゾートに隣接しており、各客室にはバルコニーが付いているので、豊かな森と遠くの山々の景色を堪能できる。

なお、テニスや、グリーンシーズンには屋外プールも楽しめ、2軒のレストラン、売店、温泉、会議施設、宴会施設も備えている。

また、車で20分程の場所に五色沼（正式には五色沼湖沼群）があり、見る角度や、時間、季節、天候などによって、微妙に変化する、まさに一期一会の絶景であるため、その日だけの特別な景色を見に行くことができる。

夏の外観

冬の外観

2 豊田ホタルの里ミュージアム

山口県下関市豊田町は古くから、ホタルの町として知られており、町を貫流する木屋川はホタルの発生地として昭和32年に国の天然記念物に指定されている。
2004年6月5日に開館した「豊田ホタルの里ミュージアム」は、10,480㎡の敷地に建てられた鉄骨造平屋建の博物館で、塗装ガルバリウム鋼板で形作られた施設の外観はゲンジボタルをモチーフとしている。館内では、木屋川流域に生息するホタルの標本や様々な資料などを展示。ホタルの不思議な生態やおもしろい情報、ホタルを取り巻く下関市の自然についても、実物・映像・模型・パネルなどでわかりやすく紹介している。館外にも、季節毎のホタルの生態や生息環境が観察できる「ホタルせせらぎ広場」などがある。また同館では様々な企画展が開かれている他、自然観察会なども行なわれている。
豊田ホタルの里ミュージアムは、下関市立唯一の自然史を扱う博物館であり、ホタルだけではなく、下関の動物、植物、化石、岩石に関する展示や教育、調査・研究を行う施設でもある。

ゲンジボタルの目線で卵、幼虫、サナギ、成虫の世界を体験できる。

ホタルの生態水槽を中心に淡水性の魚類、甲殻類、昆虫などを展示。

ファインスチール　第六十一巻　三号
平成二十九年七月二十五日発行
一、四、七、十月二十五日発行
発行所　一般社団法人　日本鉄鋼連盟　建材薄板技術普及委員会
〒103-0025　東京都中央区日本橋茅場町3-2-10鉄鋼会館
☎03(3669)4815　FAX03(3667)0245

FINE STEEL!

全国ファインスチール流通協議会
ファインスチールイメージキャラクター
ファイン君

ボクらは「自在に変化」進化した鉄！

ファインスチールは、鉄の長所を最大限に活かしながら、これからの家と暮らしにふさわしい特長を合わせ持つ、現代建築の最適な素材として注目を集めています。新しい住まいで始まる暮らしをより良いものに。
ファインスチールが理想のカタチを実現します。

ボクらの
特長

地震につよい　表面がきれい　環境にやさしい

屋根材・壁材にはファインスチール

FINE STEEL
全国ファインスチール流通協議会
http://www.zenkoku-fs.com
Fine Steel